



2020年オリンピックの開催地が東京に決まった瞬間、私はドミニカ共和国のサントドミンゴにいた。

日本ドミニカ友好議員連盟会長の遠藤利明衆議院議員を、ダニロー・メディナ・ドミニカ共和国大統領に会わせるためだ。

最近、遠藤氏は「売れっ子」だ。自民党の教育再生実行本部長として、大学入試センター試験の英語を廃止しTOEFLを導入するという大胆な決定をし、テレビや新聞でよく登場していた。その遠藤氏は東京オリ

ンピック招致議連の幹事長でもあった。つまり、2020五輪招致の国会の責任者だったわけだ。そのため、9月7日にブエ

ノスアイレスにいたことだけは、随分前からはつきりしていた。そこで、ブエノスアイレス

へス大使、駐ドミニカ日本大使の佐藤大使らと共に空港でお出迎えをしたところ、長旅にもかかわらず、「オリンピックが決まって、一気に疲れがふつとんだよ」と笑顔での到着だった。遠藤氏はおそらく7月・8月は

ドミニカ共和国再訪

遠藤氏の世界的な活躍を願う

の帰りにドミニカ共和国に立ち寄ってもらったように遠藤氏にお願いしたところ、快諾頂いた。

ほとんど日本にはいなかったに違いない。五輪招致のお願い行脚で世界中を飛び回っていたからだ。

今回の旅程では、最初に移民の方々の慰霊碑とモニュメントに献花をした。ドミニカにも、

東京五輪開催決定の翌日の夜、ブエノスアイレスからパナマ経由でサントドミンゴまでこ

来訪頂いた。前駐日大使のベル

中南米の他の国と同様、国策で移住した日本人がいる。その後、ダニロー大統領ほか、フェルナデス前大統領・現与党党首、与党幹事長、外務大臣などドミニカで偉い順番に5人に相次いでお目にかかって頂いた。

(石井 至)

いい・いたる 石井兄弟
社長、東京都在住